

著書・訳書・論文

- ・『誰のための援助?』（岩波ブックレット） 岩波書店、1987年（共著）。
- ・『たみちゃんと南の人びと Part 1、2、3』 明石書店、（共著）。
- ・『未来を奪われた子どもたち～地球の子どもに権利を取り戻す』明石書店（訳書）、1990年。
- ・「南の市民と連帯するためのNGO活動」『市民連帯論としての第三世界』所収、文真堂、1993年。
- ・「子どもの権利条約からみたインドのストリートチルドレン」『アムネスティ人権報告』所収 明石書店、1995年（『憲法を考える本』所収 光文社、1997年）。
- ・「ヒラベンとカンタベンの夢」『国際協力を仕事として』弥生書房（共著）1995年。
- ・『第三世界の農村開発 貧困の解決 私たちにできること』明石書店、1995年（共訳）。
- ・『ナマステ』日本ユニセフ協会、1995年（共著）。
- ・「SEWAのアドボカシー活動」『NGO 大国インド』明石書店（共著）、1997年。
- ・『インドの働く子どもたち』国際子ども権利センター（共著）、1998年。
- ・「北西インドの自営女性労働者協会」『アジアの内発的発展』藤原書店（共著）、2001年。
- ・「アジアの子どもから学ぶ“子ども参画”」『アジアの子どもと日本』明石書店（共著）、2001年。
- ・「子どもの人間の安全保障～子ども参加に焦点をあてて」『グローバル化と人間の安全保障』日本経済評論社（共著）、2001年。
- ・「権利と行動の主体としての子ども～インドの子どもたちとNGOの取り組み」『内発的発展と教育 ～人間主体の社会変革とNGOの地平』、新評論（共著）、2003年。
- ・『わたしの人権みんなの人権〈5〉立ちあがる世界の子どもたち』ポプラ社（編著）、2004年。
- ・『インドの債務児童労働 見えない鎖につながれて』明石書店、（共監訳）、2004年。
- ・「される側から見た援助」『開発教育52号』開発教育協会、（共著）、2005年。
- ・「カンボジアにおける子どもの性的搾取と人身売買～グローバル化する暴力と国際社会の役割」『平和研究31号』、日本平和学会、2006年。
- ・『カンボジアにおける子どもの人身売買と性的搾取への取組み～子どもの権利ベースアプローチとエンパワメント』国際子ども権利センター（共著）、2006年。
- ・「子どもの権利実現における人権基盤型アプローチの有効性～カンボジアの事例から～」『アジア・太平洋人権レビュー2008—特集：新たな国際開発の潮流—人権基盤型開発の射程—』編著：アジア太平洋人権センター、発行：現代人文社 2008年。
- ・「第9章 子ども」『開発教育 持続可能な世界のために』 編著：田中治彦 学文社、2008年。
- ・共同執筆「研究レポート 子どもが搾取されない社会を実現する～子どもと青少年の性的搾取に反対する世界会議報告」『ウイラーン 2009年3月 Vol.673』、（財）日本女性学習財団、pp.4-7、2009年。
- ・子どもを守ることをすべての人が最優先する国際的な流れ」『はらっぱ 2009年4月 No.294』、社団法人子ども情報研究センター、2009年。
- ・「教材の評価・コメント」『反貧困学習』大阪府立西成高等学校著、解放出版社、pp.15、2009年7月。
- ・「子どもの権利条約20年 誘拐・売買・取引の防止 第35条」『はらっぱ 2009年11月 No.301』、社団法人子ども情報研究センター、2009年。
- ・「深刻な人権侵害と搾取からの解放を ～カンボジアとインドの児童労働」『部落解放 2009 622号』解放出版社、pp.90-98、2009年12月。

* その他、『月刊 子ども論』クレヨンハウスに1992～94年までインドの子どもや女性について連載。『季刊子どもの権利条約』エイデル研究所、2000年、『子ども白書1999、2002』日本子どもを守る会、『新解説 子ども権利条約』日本評論社、2000年、『逐条解説 子ども権利条約』日本評論社、2009年など。